

平和ボケ隊と他人事隊

もう30年以上も前のことですが、私のいここが高校を卒業して警察官になる時に、叔母が猛反対したことを思い出しました。「警察官になんかなってみたい、ピストルで撃たれてまうにい！」(岐阜弁)。私の脳裏に『太陽にほえろ』の殉職シーンが浮かび、周囲にいた身内からも「テレビの刑事ドラマの見過ぎです」という声が聞こえてきました。長男が4月より陸上自衛隊へ入隊しました。今の私は、あの時の叔母の気持ちが少しわかる気がします。アメリカ大統領選挙では心の隅でヒラリーさんを応援していましたし、トランプさんが当選した時には、「これから自衛隊はどうなっていくのだろう」と重い気持ちになりました。食事中に世界のどこかで起きた軍事的ニュースや稲田防衛大臣、自衛隊のニュースが流れると自然と箸を止めて見入っていることに気が付きました。妻も同じです。はっきり、今まで他人事だったわけです。



それから間もなくして、長男の高校時代の後輩A君のご両親が来訪され相談を受けました。A君は県警を受験しましたが不合格になり、自らの意志で航空自衛隊に入隊することになりました。それでA君のお母さんは心配で心配で毎晩泣いているという相談でした。私の長男が同じように来春から陸上自衛隊に入隊することを担任の先生から聞いたそうです。藁にもすがる表情で少し困りました。ちょうどその頃は、中国や北朝鮮によるアジア圏のきな臭い情勢に加

え、韓国政府が不正常になっていました。更に、選挙中に「日本から米軍すべてを撤退させる！」と叫んでいたトランプさんが大統領になってしまい、お母さんの心配は一気最高レベルに達してしまっただけです。私たちにとって自衛隊は未知の世界で、具体的にいったい何を心配していいのかわからないのだけど、されど、とても不安というたちの悪いものです。以前、警察官をしている同級生が、「自衛官の任期を終え、警察官に再就職してくる人が時々いるよ」と言っていたのを思い出してお母さんにお伝えし、私の不安な気持ちも正直にお話しました。

私の56年間の人生は「平和ボケ」でした。他国の人が来日して、正午を知らせるサイレンを聞き「戦争が始まった！」と勘違いしてパニックになったと聞いたことがあります。世界的には、毎日緊張して生活しなければならない人の方がずっと多いのでしょう。

今まで私は岐阜県人でありながら、戦後、現在沖縄県に駐留するアメリカ軍海兵隊の基地が岐阜県(現在の航空自衛隊岐阜基地・各務原市)と山梨県富士吉田市にあった事を知りませんでした。檀家さんに聞くと、「女子供はアメリカの兵隊さんがいるので夜は絶対に出歩いたらダメ！」と強く言われたそうです。現に多くの風俗店ができ治安が相当悪かったそうです。それで地元住民の反対運動が活発となり、1956年、両基地から1万数千人の海兵隊員が沖縄県へ移留したそうです。岐阜県人が沖縄県へ追い出した歴史があるという事です。やはり、平和ボケから発生した「他人事」です。 俊徳丸